

2020年度

**S A**

# 小論文

3月12日(木)

人文社会科学部

(社会学科)

10:00～11:30

【後期日程】

## 注意事項

### 試験開始前

- 1 監督者の指示があるまで、問題冊子、解答用紙、下書き用紙に手を触れてはいけません。
- 2 監督者の指示に従って、全部の解答用紙(3枚)に受験番号を記入しなさい。

### 試験開始後

- 3 この問題冊子は、3ページあります。はじめに、問題冊子、解答用紙、下書き用紙(1枚(表裏))を確かめ、枚数の不足や、印刷の不鮮明なもの、ページの落丁・乱丁があった場合は、手をあげて監督者に申し出なさい。
- 4 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。(下書き用紙と間違わないよう十分注意してください。下書き用紙は採点対象となりません。)
- 5 解答用紙の使い方については、裏面の『注意事項』を参照してください。
- 6 問題は、声を出して読んではいけません。
- 7 配点は、比率(%)で表示してあります。

### 試験終了後

- 8 問題冊子と下書き用紙は、必ず持ち帰りなさい。

## 『注意事項』

1. 書き出しは、一マスあけない。
2. 改行したら、一番上の一マスをあける。
3. 読点には「，」を使用し、句点には「。」を使用し、それぞれ一マスとする。ただし、行の末尾については文字と同じ一マスに含める。
4. 小さな文字「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」は一マスで使う。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

（著作権許諾手続中）

(著作權許諾手續中)

# （著作権許諾手続中）

（松田純『安楽死・尊厳死の現在 最終段階の医療と自己決定』中公新書 二〇一八年刊より、一部改変）

（注一） 安楽死は、オランダで二〇〇一年四月に世界で初めて合法化された。以後、ベルギー、ルクセンブルク、カナダでも同様の法律が制定されている。また、米国オレゴン州はじめていくつかの州とスイスでは、医師による直接の安楽死は認めないものの、致死薬の処方などによって、一定の条件下で自殺介助が認められている。

（注二） この認知症女性は安楽死への事前の意思表示を書いていたが、安楽死実行時に彼女の意思は明確ではなかった。

問一 傍線部について、アグネス・ヴァン・デル・ハイデはなぜこのような議論が成り立つと考えるのか、本文を踏まえて二〇〇字以内で説明しなさい。  
（配点三〇％）

問二 この文章を読んで、安楽死という考え方が現代社会においてどのような意味を持ち得るかについて、あなたの考えを六〇〇字以内で述べなさい。  
（配点七〇％）